

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	回復期リハビリテーションの看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	各教室
担 当 教 員	伊藤裕子	実務経験とその関連資格	総合病院で看護師として勤務、がん化学療法看護認定看護師の経験あり 訪問看護ステーションで訪問看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》 回復期リハビリテーションの看護では、障害者や家族の心理・社会的体験やそのアセスメント、セルフケアへの援助、リスク管理、社会参加への援助について学ぶ リハビリテーションでは、対象論として障害者や家族の心理・社会的体験、方法論としてアセスメントおよび心理・社会的体験やセルフケアへの援助、リスク管理、社会参加への援助について学ぶ 運動器系、中枢神経系、呼吸器・循環器系、感覚器系の障害に対するリハビリテーション看護について理解する						
《成績評価の方法と基準》 筆記試験・出席状況並びに事前課題レポート、課題提出状況にて総合的に判断する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 人体の構造と機能[1] 解剖生理学						
《授業外における学習方法》 ・事前課題、課題レポート 授業の振り返りをまとめる						
《履修に当たっての留意点》 疾病の成り立ちと回復の促進、人体の構造と機能について復習をしておくこと。テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	回復期にある患者の特徴と看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む	
		各コマにおける授業予定	回復期にある患者の特徴と看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション看護の対象・リハビリテーション看護の方法について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション看護概論 A リハビリテーション看護の定義と専門化 B リハビリテーション看護の対象 C リハビリテーション看護の方法			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	運動器系の障害とリハビリテーション看護(事例検討)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	運動器系の障害とリハビリテーション看護(事例解説)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(事例検討)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(事例解説)		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害とリハビリテーション看護		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護について説明することができる	教科書他	事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	感覚器系の障害とリハビリテーション看護		